

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	三浦麻子	所属	関西学院大学
研究会等名称	サイエンスコミュニケーション研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください) 会員 12 名 (うち認定心理士 0 名) 非会員 3 名 (うち認定心理士 0 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>本研究会の目的は、心理学の学術的成果をなるべく正しくわかりやすく社会に向けて情報発信する手段としてのサイエンスコミュニケーション、特に科学記事として伝達するサイエンス・ライティングを实践し、習熟することにある。</p> <p>2017年9月10日に日本心理学会第81回大会(久留米大学)で開催された学会博物館小委員会企画シンポジウム「PSYence Communication しよう!」では、三浦が話題提供者を務め、自身のサイエンスコミュニケーションの实践経験を踏まえて、心理学のサイエンスコミュニケーションに際する問題とその解決策について講演し、参加者との議論を行った(添付資料参照)。本シンポジウムの司会は武田美亜が務めた。また2017年6月17日に九州大学で開催された「第3回こころと身体の学際会議」を共催した(https://goo.gl/uhQ5M5)。</p> <p>心理学ミュージアムには村山綾と田渕恵による「人はなぜ加害者への厳罰を求めるのか」(http://psychmuseum.jp/error_management/)が掲載され、優秀作品賞を受賞した。</p> <p>さらに、以下のとおり、Web上でもサイエンスコミュニケーションの实践を行った。昨年までと同様に、各メンバーの研究成果をプレスリリースとして発信するほか、論文誌に掲載された興味深い論文を紹介するブログ執筆なども日々実践している。山田祐樹・佐々木恭志郎・郷原皓彦による「ネオサイキサイエンス」https://note.mu/momentumyy/m/m77f2becf2d56が新たに始まった。また三浦は、ニュースメディア GIGAZINE のインタビュー取材を受け、それをまとめた記事が「科学研究とメディアの関係はどうあるべきか?社会心理学者の三浦麻子教授インタビュー」と題して2017年7月31日に公開された(http://gigazine.net/news/20170731-miura-asako-social-psychology/)。さらに、2018年1月に会員となった高橋康介(中京大学)は、ネットラジオ TODA RADIO (https://kohske.github.io/research/TodaRadio/index.html)を主宰し、ネットで心理学に関する最新的话题を語るという形でサイエンスコミュニケーションを实践している。</p> <p>2018年度も、各媒体での多種多様なサイエンスコミュニケーション实践を引き続き継続すると共に、活動の周知および拡大のために努力する。また、三浦は日本心理学会広報委員長として、山田は同委員として、これまでの本研究会での経験を活かして、学会の広報活動にも貢献したい。</p>		

研究集会参加者リスト

〈研究会名〉				
サイエンスコミュニケーション研究会				
研究集会開催日：2017年6月17日(土)				
	氏名	所属	会員	認定 心理士
1	羽生奈央	山口大学		
2	寺尾将彦	山口大学	○	
3	小野史典	山口大学	○	
4	孟憲巍	九州大学	○	
5	鳴海拓志	東京大学		
6	村田藍子	早稲田大学	○	
7	和田有史	立命館大学	○	
8	岩佐和典	就実大学	○	
9	高橋康介	中京大学	○	
10	宮島健	九州大学	○	
11	山本健太郎	九州大学	○	
12	佐々木恭志郎	早稲田大学	○	
13	中響子	九州大学		
14	山田祐樹	九州大学	○	
15	郷原皓彦	九州大学	○	
16	渡邊克巳	早稲田大学	○	
17	秋保亮太	九州大学	○	
18	三浦麻子	関西学院大学	○	
19	三浦佳世	九州大学	○	
20	上岡玲子	九州大学		
21	小川奈美	東京大学		
22				
23				
24				
25				

2018年3月16日

日本心理学会研究会 2017 年度会計報告書

研究会名称 サイエンスコミュニケーション研究会

研究会番号 研17011

助成金額 ¥30,000

年月日	項目	金額
支出合計		¥0